

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（ 松阪工業高等学校 全日制 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ○社会人として必要とされる人材となるために、挨拶をはじめとする基本的な生活習慣を身につけ、人権感覚豊かな人間性を磨く学校 ○専門学科における知識、技術の習得に意欲や向上心を持ち、技術者として通用する専門性を養うとともに、地域からの信頼に応える学校 ○文武両道に成果を示すことのできる生き生きとした学校
(2)	育みたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣と高いコミュニケーション能力を身につけた人権感覚豊かな生徒 ○仲間を大切にしながら部活動や資格取得等の取組を活発に行う生徒 ○希望の進路実現に向けて主体的、積極的に行動する生徒
	ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の個性を伸ばしながら人間性を高めることを常に意識し、生徒の成長を自らの喜びとする教職員 ○生徒の進路実現を目指し、基礎学力の向上や専門的な知識・技術の習得等に向けた弛まぬ努力を行う教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉希望進路の実現。わかりやすい授業の実施と基礎学力の向上。充実した学校行事や部活動等の実施。</p> <p>〈保護者〉基礎学力の向上。希望進路の実現。施設・設備等の教育環境の充実。学校行事等への参加機会の増加。</p> <p>〈地域（含む小中学校、就職・進学先）〉社会人としての基本的な生活習慣や礼儀の養成。技術者としての広範な知識と高いコミュニケーション能力の育成。奉仕活動等の地域連携の充実。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者・地域〉同上</p> <p>〈同窓会〉本校の歴史と伝統を十分に理解し、本校生徒としての誇りと自覚を持つ、社会に有為な人材の育成。</p>		<p>〈保護者・地域・同窓会〉PTA活動、地域行事、インターンシップ、講演会等による学校経営への参画。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○「専門性の高い」学校としての取組を積極的にアピールし、入学志願者数の増加や地域からの信頼度の向上等に努めてもらいたい。また、「ウィズコロナ」も視野に、ICTの活用等の新しい教育活動の充実にも尽力してもらいたい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○教職員は、教科指導をはじめ、部活動指導や資格取得支援等で自律的な教育活動を展開しているが、質の向上という点で改善・工夫の余地がある。</p> <p>○生徒は、挨拶や礼儀等の基本的な生活習慣を身につけつつあるが、コミュニケーション能力の十分な習得には至っていない。</p>	
	学校運営等	<p>○本校への関心が高まり、諸行事への協力等の地域からの要請が増加しているが、生徒や教職員の間には多忙感も少なからず生じている。</p> <p>○令和2年度における県内教職員による生徒を著しく傷つける事案が続けて発生したことを踏まえ、教育への信頼回復のための取組が求められている。</p> <p>○ホームページや学校新聞「せきへきたましい」等による魅力的な広報活動を進め</p>	

ているが、一定の志願者数の確保には繋がられていない。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が自己肯定感（自尊感情）を高められるよう、基礎学力の向上、部活動指導や資格取得支援の取組を推進するとともに、特別支援教育や教育相談の充実を図る。 ○生徒が自己の在り方生き方を主体的に考えられるよう、「生徒指導は進路指導」の認識の下、基本的生活習慣の確立の取組を推進するとともに、コミュニケーション能力等の社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力の育成を図る。 ○生徒が互いの良さや個性、多様な考えを認め合い、自主的・実践的に活動できるよう、人権教育、道徳教育、命を大切に教育、主権者教育の充実を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、授業改善を推進するとともに、教育課程の改善や人的・物的体制の確保等による教科等横断的な学習の充実を図る。 ○中学生や地域住民が本校を魅力あふれる学校として認知できるよう、日々の情報発信をはじめとする広報活動を推進するとともに、地域活動等における連携・協働を図る。 ○教職員が健康を維持し、意欲を持って教育活動を継続できるよう、総勤務時間縮減に向けた取組を推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科等指導	<p>(1) 基礎学力の定着を図る。 【活動指標】①基礎力診断テスト等の取組の定期的な実施と学力水準の適切な把握。②補習等の効果的な指導の充実。 【成果指標】診断結果「Dゾーン」生徒数の減少。</p> <p>(2) 適切かつ効果的な部活動指導に努める。 【活動指標】①意欲的な参加機会の創出と生活とのバランスを考慮した活動の保障。②達成感・充実感をもたらす指導の充実。 【成果指標】大会等で楽しさや喜びを実感する生徒数の増加。</p> <p>(3) 資格取得の奨励に努める。 【活動指標】①主体的・積極的な受験（受検）機会の創出と補講等の効果的な支援の充実。②資格取得者の一定数の確保。 【成果指標】ジュニアマイスター顕彰優良校としての認定。</p>	<p>(1) 在宅学習期間の影響を最小限とするよう、テスト日程や補習方法の変更等を行った。一方で補習については、昨年度に引き続き、国数英で個別指導を行った。</p> <p>(2) 感染症拡大防止による活動の自粛等があったが、各部が工夫しながら活動できた。</p> <p>(3) 資格の受験者数、および合格者数はやや減っているが、1年生がクラス減になっていることを考慮すれば、実質的には増加していると考えられる。3年生が主体となるジュニアマイスターではゴールド受賞者が1.7倍となるなどの成果を挙げられた。また、難関資格の電験三種に8人の大量合格を出して全国1位となり、超難関資格の電験二種も昨年に続いて合格者が出た。</p>	※◎
生徒指導及び進路指導	<p>(1) 基本的生活習慣の確立を図る。 【活動指標】①毎日の登校指導挨拶の励行と遅刻者の減少に向けた指導の徹底。②問題行動の未然防止に向けた指導の充実と効果的な特別指導の推進。 【成果指標】遅刻者数及び問題行動件数の減少。</p> <p>(2) 生徒の希望や適性に合ったキャリア教育</p>	<p>(1) 登校指導や生徒会の挨拶運動の結果、挨拶する生徒が増加し、遅刻数も減少した（3月1日現在378件、昨年度388件）。また、特別指導数も減少傾向にある（3月1日現在11件、4年前から順に、29・</p>	※◎

	<p>の充実努める。</p> <p>【活動指標】①資料室利用の促進や相談・面談の機会の創出。②企業や大学等の関係諸機関との早期からの連携の強化。</p> <p>【成果指標】卒業時点での進路未決定者数の減少。</p>	<p>15・19・10件)。</p> <p>(2) 学校斡旋の就職希望者の内定率は100%、公務員合格者は4名となった。進学先未定の生徒は1名いる(3月1日現在)。求人票のPDFファイルをGoogle Classroomから閲覧できるようにした。</p>	
その他の生徒支援	<p>(1) 健康の自己管理(セルフ・ケア)能力の育成を図る。</p> <p>【活動指標】①効果的な啓発機会の創出と感染症防止や健康維持等に対する理解の促進。②生徒一人ひとりの課題に応じた教育相談(カウンセリング)の推進。</p> <p>【成果指標】保健室来室者数の減少。</p> <p>(2) 豊かな心の育成を図る。</p> <p>【活動指標】①HR等での個性や多様な考え等を認め合う(いじめや暴力を許さない)環境の整備。②自立心や自律性、相手を思いやる心や生命を尊重する心等の育成に向けた学校総体での取組の推進。</p> <p>【成果指標】学校生活(いじめ防止)アンケート、各種講話、人権LHR等の取組の定期的な実施と充実化。</p>	<p>(1) 感染症拡大防止のため、性教育、献血にかかる講演会をリモート等で実施したが、自らの生き方を考えさせる良い機会となった。また、教育相談件数は計44回と、一定の支援ができた。</p> <p>(2) いじめ防止アンケートを活用し、いじめ防止に向けた早期対応に取り組んだ。また、感染症拡大防止のため、一部、人権LHRや講演会が実施できなかったが、互いに認め合う大切さを訴えるなどのクラス通信を発行した。</p>	※◎ ◎

改善課題

ICTを活用することで、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力等を効果的に育成することに向けた授業改善について、引き続き、重点的に取り組む必要がある。特に、本年度、教育課程研究指定校事業での英語の取組や、ICTの学び推進事業での国語、数学、英語の取組の成果を他教科に広げていかなければならない。

教育相談にかかわっては、今年度も課題の多様さや複雑さ、深刻さが目立った。引き続き、関係諸機関との連携を強化し、個々の状況に応じた適切な支援を充実させていかなければならない。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校の活性化	<p>(1) 授業改善の推進に努める。</p> <p>【活動指標】①授業等の学校行事の積極的な公開。②校内外の研修への積極的な参加と継続的な自己研鑽。</p> <p>【成果指標】授業公開アンケート等での好評価の確保。</p> <p>(2) 広報の充実と地域連携の深化に努める。</p> <p>【活動指標】①学校案内やHP等の広報媒体の魅力化。②精選をふまえた上での地域貢献活動への参画。</p> <p>【成果指標】入学志願者の一定数の確保。</p> <p>(3) 教職員の資質の向上を図る。</p> <p>【活動指標】①現職教育等の効果的な実施とコンプライアンス意識の日々の醸成。②不祥事根絶に向けた働きかけを行うため、「学校信</p>	<p>(1) 研究授業の開催や、ICTを活用することで教科の目標をこれまで以上に達成するための協議、それらにかかわる校外研修に適時、取り組んだ。一方で、感染症拡大防止のため、授業や松工祭等のこれまで公開してきた行事の公開を中止した。</p> <p>(2) 継続して広報内容の精選を行った。ただし、入学志願者に対する効果の検証は十分にできなかった。</p> <p>(3) 感染症拡大防止のため、資質の向上には十分に取組めなかった。学校信頼向上委員会</p>	◎ ※ ◎

	<p>頼向上委員会」を設置し、月1回程度開催する。</p> <p>【成果指標】①不祥事の根絶。②保護者・地域からの信頼感の向上。</p>	<p>等を活用し、定期的にコンプライアンス意識の醸成に取り組んだ。また、感染症対策については、学校全体で適切に取り組めた。</p>	
情報提供による信頼の構築	<p>(1) ホームページ等による情報提供</p> <p>【活動指標】行事ごとにおける本校のホームページ、ツイッターの更新</p>	<p>(1) 行事ごとにホームページ、ツイッターの更新を行うことができた。修学旅行については、リアルタイムでの更新に取り組めた。</p>	※
働き方改革の推進	<p>(1) 総勤務時間の縮減に努める。</p> <p>【活動指標】①定時退校日（月1回以上）の設定と定時退校者の一定数（職員数の90%）の確保。②部活動休養日（週1日）の完全実施。③諸会議の1時間以内での開催の完全実施。</p> <p>【成果指標】①月平均時間外労働の削減（1人あたり25時間以下）。②年360時間超え並びに月45時間超えの時間外労働者の根絶。③年間休暇取得数の増加（1人あたり15日以上）。</p> <p>(2) 業務内容の平準化に努める。</p> <p>【活動指標】①各分掌等の業務内容の精選。②部活動の設置数の削減。</p> <p>【成果指標】組織委員会等での抜本的な改革。</p>	<p>(1) (2) 業務内容の精選や、休暇を取得しやすい雰囲気づくりに組んでいる。しかし、時間外労働が特定の教職員に偏っている現状は残存している。</p>	※◎
改善課題			
<p>学校の魅力をさらに高めるとともに、中学校への発信、連携を進め、入学志願者の一定数の確保を図らなければならない。</p> <p>業務改善については、部活動の設置数の削減や特定の教職員に時間外労働が偏っていること等、一層の働き方改革に努めなければならない。</p>			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>学校の取組を公開したり、生徒たちの実績を積極的にメディアに取り上げてもらうことは、重要なことである。また、学校運営に生徒の意見を反映できるとよい。</p> <p>特色ある魅力的な学校づくりを、今後さらに充実させてもらいたい</p>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>生徒の自己肯定感・自尊感情をより高めるためにも、基礎学力の向上に引き続き取り組む。また、令和4年度よりBYOD（一人一台端末）が開始されるに当たり、教科の目標達成のため、これまで取り組んできたICTの活用をより一層充実させる。</p> <p>教育相談等による生徒一人ひとりの課題に応じた適切な支援の充実に努める。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>入学志願者の確保という点からも、特に地域貢献活動等とおした魅力ある教育活動の実践を図ることや、工業高校としての魅力をよりアピールする工夫が必要である。</p> <p>また、そのためにも、業務内容の平準化等により一層の働き方改革に努める。</p>